甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡ー中山金山

No.114
2026.3.31

2026年3月9日(月)～16日(月)
湯之奥・茅小屋金山遺跡 発掘調査実施！

新年度目前の３月、これまで幾度も現地へ足を運び、少しずつ調査を進めてきた茅小屋金山遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査は中山金山における総合学術調査以来、実に37年ぶりです。「地表面からわかること」と「地中からわかること」が重なり合い、そのようすが明らかになろうとしています。本調査は帝京大学文化財研究所の櫛原功一先生、金井拓人先生、帝京大学・國學院大學の学生、調査検討委員会委員、博物館応援団、ボランティア有志など多くの方々の協力を経て実施できました。３月15日（日）には現地説明会も開催し、遺跡内には約40人が調査・滞在。一時、まるで全盛期の鉱山村のようなにぎやかさが現れたようでした。これから本調査成果を整理・検討しつつ、来年度の調査に向けて歩みを進めてまいります。

☞調査に関する記事はP.2、3、5をご覧ください

お知らせ▶**開館29周年イベント！ギャラリートーク　～茅小屋金山遺跡ってどんなところ？～**

茅小屋金山遺跡の発掘調査について、博物館職員が最新の情報をお話します。ギャラリートークは展示観覧券付き。当日に限り、常設展示をご自由にご観覧いただけます。

【日　時】2026年４月25日（土）午前10時～午前11時　【場　所】金山博物館１階　多目的ホール

※参加無料。事前申込不要。当日時間までに博物館へお越しください

茅小屋金山遺跡の石造物

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館　館長　信藤祐仁

茅小屋金山遺跡

茅小屋金山遺跡は毛無山の西側、下部川上流になる入ノ沢右岸の標高760～850m付近に存在する。内山金山はこの沢筋の上流、比高差400～600m付近に位置する。平成2～4年の現地調査においてA～Uまで21面のテラスが確認されたが、平成23年の豪雨によりAからCテラスとMテラスなどを流失してしまったほか、土砂の流入もあって現在では大きく地形が改変されてしまっている。

茅小屋金山遺跡の石造物の概要

過去の調査において石造物が所在したのは、A,P,Q,Uテラスであった。これらの現状と新たに発見された石造物を以下に記す。Aテラス(宮屋敷)の石祠は未調査のままテラスと一緒に消滅し現在行方が分からなくなっている。Pテラスの板碑型石塔は前回調査と同じ場所に立っている。Qテラスには3基の石造物がまとまっていたが、3部材あった宝篋印塔は相輪部を消失し、笠部は約10m下方に転落し、反花座部は10個体以上に割れ一部の部材は消失している。上部を欠く板碑型石塔は、一部がさらに割れ表面が一部欠損するが、接合する部材が新たに確認された。石殿の屋根部はそのまま残っており、同石殿の軸部と思われる部材や「卍」が刻まれた板碑型石塔の一部も周辺から新たに発見されている。Uテラスには5基の石造物が確認されていた。板碑型石塔の1基は当時とほぼ変わらず立っていたが、他の1基は当時から割れていた中央部分から下部を消失している。3基あった宝篋印塔はそのまま存在し、調整された角柱状石材も新たに確認している。

前回の調査後他の地点で新たに発見された石造物は、Hテラス上部の未命名テラスの方形台座、茅小屋金山入口部手前の駒繋ぎ石、金山手前の尾根上の板碑型石塔の下部である。

Pテラスの板碑型石塔❾

Pテラスの板碑型石塔は、これまで未確認であった地中に埋もれた部分を今回全部掘りあげ、下部の状況を確認した。前面下部には陰刻された蓮弁があり、下部にはほぞがある。ほぞを受ける台座の石はなく、地中に埋めて立てられていた。

駒繋ぎ石は、遠くから見ると一見石祠のような形状で、角柱状の自然石の中央部分を円柱状に細くしている。駒繋ぎ石は韮崎宿などにある石に穴を穿ったものがあり、細長の石のものや国母の信玄駒繋ぎの柏のように樹木を利用するのが一般的であった。

板碑型石塔や宝篋印塔台座に刻まれた年号は承應三年(1654)から寛文六年(1666)までの17世紀半ばのものであり、「南無妙法蓮華経」の題目が陰刻されていることから日蓮宗の影響下で造立されたものである。金山の衰退期になって、石造物が多く造立されていることがわかる。Uテラスの板碑型石塔は、大田八左衛門が慈父の追善供養のため造立したものである。

▲(左)板碑型石塔❼/(右上)❻の台座/(右下)⓬駒繋ぎ石

▲太田八左衛門供養塔

茅小屋金山遺跡の石造物一覧表

番号	年号	西暦	形	銘文	所在	備考
❶	承応三年	1654	板碑型石塔	承應三年甲午 南無妙法蓮華経慈父法傳霊 二月十七日施主大田八左衛門	Uテラス	高さ180cm
❷	—	—	宝篋印塔	なし	Uテラス	笠部のみ 現存高82cm
❸	万治三年	1660	宝篋印塔	萬治三年[　　] 父、玄□霊[　　] 母妙玄[　　] 二月[　　]	Uテラス	基礎部のみ 現存高22cm
❹	—	—	板碑型石塔	なし	Uテラス	中山金山②と類似 高さ102cm
❺	—	—	宝篋印塔	なし	Uテラス	反花座部(破片) のみ現存高15cm
❻	—	—	宝篋印塔	なし	Qテラス	相輪部(破片)、笠 部、反花座部のみ 現存高77cm
❼	—	—	板碑型石塔	[　　] [　　] 三月[　]日	Qテラス	上部欠損 詳細調査中
❽	—	—	石殿	なし	Qテラス	屋根部のみ 現存高36cm
❾	寛文六年	1666	板碑型石塔	寛文六　丙午 南無妙法蓮華経□母妙□霊 八月二十□	Pテラス	地上高74cm (下は地中)
❿	—	—	石祠	未調査	Aテラス	宮屋敷跡
⓫	—	—	石殿軸部(？)	なし	Hテラス北側	詳細調査中
⓬	—	—	駒繋ぎ石	なし	金山入口部	詳細調査中
⓭	—	—	板碑型石塔	なし	金山西尾根	詳細調査中

調査研究活動01　11/3㊊㊗～6㊍　北海道今金町カニカン岳調査

当館の小松学芸員が北海道今金町教育委員会より出講依頼を受け、カニカン岳山中の金挽臼が残されているテラスへの到達を目的とした現地踏査に同行しました。今金町は旧石器時代のピリカ遺跡（国史跡）がある場所としても有名です。一方で、ダム建設に伴う調査で縦横無尽に走る水路や石垣などが確認された柴金遺構の美利河、鉱山臼が存在するカニカン岳など、産金の歴史が息づく町です。令和4年10月13日には「今金・美利河の金山遺跡」として北海道遺産にも選定されています。カニカン岳の金山遺構への到達はこれまでも困難を極めており、今金町教育委員会の宮本雅通学芸員、矢原史希研究員の度重なる熱心な事前踏査の末、ようやくルートを確定できた経緯があります。猟友会メンバー伊藤氏同行のもと、そのルートを使って現地にたどり着くことができました。金挽臼が複数残る現地には、推定60kgをはるかに越えるような大型金挽臼も確認されました。また鉄製の搗鉱機の一部など、金山稼業が明治以降まで続いた痕跡も確認され、カニカン岳の産金史が少し紐解かれました。（本調査は2025年12月6日（土）の『北海道新聞』地域の話題にて紹介されました）

調査研究活動02　11/10㊊・26㊌・27㊍・12/20㊏　茅小屋金山遺跡発掘調査にむけた事前調査

3月の発掘調査実施に向け、テラスの位置確認や汰りかす（粉砕した鉱石から金分を取り出したあとの滓）の堆積状況、地表面に残る鉱山臼や陶磁器片の確認など、入念な事前調査を行いました。

調査研究活動03　11/15㊏・16㊐　日本鉱業史研究会　現地見学会

湯之奥金山との比較研究として日本鉱業史研究会主催の現地見学会に小松・伊藤両学芸員が参加しました。今回の見学場所は徳島県阿南市。同市では辰砂採掘跡の調査研究が精力的に行われており、2019年に「若杉山辰砂採掘遺跡」が国史跡に指定されています。津乃峰山や若杉山辰砂採掘遺跡とその周辺を訪れ、火を用いて辰砂を採掘した結果ドーム状になった「火攻法」の痕跡を残す坑内や石杵、辰砂の鉱脈などを見学しました。また、「いにしえの鉱山採掘～弥生から中近世の採掘技術を深掘り～」と題した講演会も開催され、全国から集まった鉱山史研究者と情報交換しました。

調査研究活動04　12/4㊍　金挽臼の試験写真実測

総合学術調査以降の測量調査や日々の継続調査により、多数の鉱山臼が発見・博物館に収蔵されています。このほど、帝京大学文化財研究所の金井拓人先生指導のもと、金挽臼の写真実測を行いました。手書きによる実測は考古学の基本ですが、近年、360度全方向から写真撮影し3Dモデル化する技術も活用され始めています。実測時間の大幅短縮を可能とし、日々の接客業務を担いながらの当館において、極めて有効な手法です。このノウハウを用い、今後も遺物の記録保存を行っていきます。（手法の詳細については金山史研究17「三次元モデルに基づく鉱山臼二次元表現―多光源陰影Sobel合成画像（MSSC画像）の提案―」論考にて金井先生が論じています）

調査研究活動05　12/5㊎～7㊐　富山県魚津市金山調査

越中七金山のうち3つの金山が存在する富山県魚津市。魚津埋没林博物館の佐藤真樹学芸員の依頼で、謎多き松倉金山の歴史を紐解くべく、鉱山研究者たちが集いました。小松学芸員もその一人で、雪に覆われた現地踏査に赴きました。応永年間（1394 ～ 1428）に発見、慶長年間（1596 ～ 1615）に最盛期を迎えたと伝わる松倉金山周辺には、多数の金挽臼が残されていますが、金山の詳細な実態は分かっていません。金挽臼による傾向を見るにとどまった今回の調査でしたが、雪解けを待ち再調査を予定しています。

調査研究活動06　1/31㊏　大炊平洞穴調査

久間英樹先生（九州大学総合研究博物館専門研究員）とともに町内の大炊平洞穴を再調査しました。久間先生は坑道や洞穴調査を経て状況や環境による探査手法と、ロボット開発を研究しています。今回は「狭小な水没洞穴」という条件下にマッチする探査ロボットを開発しての調査実施でした。この洞穴は柴金採掘跡として考えられてきましたが、現地から金分は見つからず、坑内の状況から産金のためではない可能性が高くなりましたが、引き続き、地域の協力を得ながら調査を継続していきます。

調査研究活動07　2/3㊋　第2回 湯之奥金山遺跡等調査検討委員会

発掘調査を控えたこの日、オンラインで２回目の調査検討委員会を実施しました。会議では、調査内容や諸手続きの最終確認、調査後の情報公開についてご審議いただきました。

調査研究活動08　3/7㊏　資源素材学会春季大会「鉱業史」

資源・素材学会春季大会の鉱業史部門において当館の小松学芸員が「柴金採掘遺構調査と再考」と題し、町内に残る“謎の洞穴遺構”について研究発表しました。

調査研究活動09　3/9㊊～16㊊　茅小屋金山遺跡発掘調査を実施
3/15㊐　茅小屋金山遺跡発掘調査現地説明会

昨年7月、身延町と帝京大学とで連携研究・事業に係る協定を締結しました。そうしたなか、3月9日（月）～16日（月）の８日間、博物館と帝京大学文化財研究所とで湯之奥金山遺跡の発掘調査を実施。３箇所のテラスを掘削しました。その結果、鉱石を粉状に粉砕する「金挽臼」が約30点見つかり、鉱山作業の痕跡が伺えました。また、長年土砂で埋もれ窯跡とされていた石組みは、火や炭の痕跡がほとんど確認されず、形状からも貯蔵庫のような性質をもつ石室（いしむろ）である可能性が出てきました。さらに、遺跡内では多数の陶磁器片も確認されています。これらが金山の歴史にどう関わるのか、今後さらに精査していきます。

また、15日（日）には一般を対象とした現地説明会を開催しました。町内をはじめ県外からも参加者が集まり、金山遺跡を実際に目で見て肌で感じていただける良い機会となりました。なお、本調査結果は『金山史研究』にて概報として発刊します。一般公開をお楽しみに。

活動報告01　12/14㊐　第5回 シン・サンポ　帯金地区編

今回の散策地は身延町帯金地区。富士川東岸の東河内領の六組の一つ「帯金組」の史跡と文化財をめぐりました。まず、金龍寺寺宝の木喰上人作の「日蓮聖人像」拝観し、金龍寺がもと存在していた「日朝堂」を見学、上小路組で管理している木喰仏の「薬師如来像」を拝観しました。その後、帯金氏の菩提寺静仙院に行き、自然石の長い石段を迂回する道を通って十王堂の中の閻魔十王像や古い形式の石造物などの説明を聞きながら拝見しました。

活動報告02　12/19㊊　第2回 博物館運営員会

今年度２回目となる博物館運営員会を実施し、今年度の運営状況と来年度の事業計画についてご審議いただきました。

活動報告03　「福缶」2026　限定100缶完売

午年にあやかってカウボーイ姿のもーん父さんが登場した売店人気商品「ビックリ！砂金缶」のお正月バージョン。お客様から好評をいただき、あっという間の完売となりました。

活動報告04　生中継番組で博物館をPR
1/13㊋　BSよしもと「ジモトノチカラ」　/　26㊊　NHK「あさイチ」

BSよしもと「ジモトノチカラ」では、いしいそうたろうさんが、NHK「あさイチ」では鈴木遥さんがリポーターとして、生中継で博物館を紹介くださいました。お二人とも砂金採り体験に挑戦し、楽しく学んで遊べる博物館の魅力がたっぷり詰まった生中継となりました。

活動報告05　1/17㊏　第6回 館長講座「穴山武田氏と信玄・勝頼・家康」

これまでの館長講座では、河内地域の歴史を考古学・山岳信仰・牧と甲斐源氏・中世前半期の武士の時代をテーマとして甲斐国全体から見た視点で開催してきました。今回は中世後半期の「穴山武田氏と信玄・勝頼・家康」と題して甲斐国河内領を統治した穴山武田氏についてその進出からの興亡を概観し、当日は県内外から多くの方が足を運び、聴講くださいました。

活動報告06　1/18㊐　砂金番付表リニューアル！

30分の砂金採り体験時間で採れた砂金粒数を番付化した「砂金番付表」。さかのぼること約四半世紀前の2003年からスタートし、砂金採り体験をこよなく愛する多くのお客様から親しまれてきました。そんな番付表が2026年１月より大幅リニューアル。「30分の体験時間で3粒採れたら100点満点」とご案内しているなかで、以前の番付表の粒数はかなりのハードルの高さであったため、1粒単位で気軽に申請できるよう設定し直しました。本番付表は体験室壁面に掲示しているほか、当館公式HPでも掲載しております。掲載希望の方は、スタッフが粒数を確認いたしますので気軽にお声がけください。

公式HP版「砂金番付表」はこちら▶

活動報告07　2/7㊏　第13回 金山遺跡砂金研究フォーラム

金山博物館を拠点に展開するフィールドワークの経験や体験、疑問点などをテーマに「博物館応援団Au会」のみなさんが企画・開催する研究発表会です。「富山県南部の銀山をさがし歩いて」、「忘れられた坑口をオープンデータを使い見つけた話」、「大仁金山と温泉の今昔物語」、「伊豆の金山群をめぐる市民活動の広がりと現在地」、「三浦半島産砂金の謎」、「現代に伝わらなかった謎の比重選鉱装置キーヴス（立桶）についての実験」と題して全国から５人が登壇し、約30人が聴講しました。

広瀬義朗さん

市川　剛さん

藤浪弘雅さん

木村　葵さん

堀　浩樹さん

野村敏郎さん

活動報告08　2/14㊏　おしえて☆みやもん先生！　第18回 化学実験教室

開成中学校・高等学校の教諭である宮本一弘先生を講師に招き、化学実験教室を開催しました。第18回目となる今回は「光」や「酸とアルカリ」、「水の電気分解」がテーマ。ドライアイスやトイレ用酸性洗剤を用いた演じ実験では、酸とアルカリによる色の変化に子どもたちから歓声があがりました。

もーん父さんトピックス

☆ 11/30㊐　志木市民まつりで博物館を PR

埼玉県志木市で開催された「志木市民まつり」に参加し、ステージでは富士川町のゆずにゃんとコラボし博物館の魅力を PR しました。

もーん父さん これからの予定 ～以下のイベントにおでかけします～

☆4/5㊐　第45回 富士川町　大法師さくらまつり
☆4/6㊊　春の交通安全運動　7:30 ～身延駅　14:00 ～飯富商興会駐車場
☆4/25㊏　開館29周年記念　もんふぁんミーティング　13:30 ～ 15:00
☆5/30㊏　ごほうび浪漫博TOKYO

ゴールデンウィークのお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
4/26	27	28	29 昭和の日	30	5/1	2
通常開館	通常開館	通常開館	通常開館	休館日	通常開館	通常開館
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
通常開館	通常開館	通常開館	通常開館	休館日	休館日	通常開館
← ゴールデンウイーク企画 →						

ゴールデンウィーク 特別企画

★5/5(月)こどもの日限定「こどもくじ」。すてきなプレゼントゲットのチャンス！
　※チケットご購入の小学生以下のお子さま限定。1人1回まで。なくなり次第終了
★5/3 ～ 6までの4日間は、砂金採り体験水槽の天然石＆純銀粒が平時より増量！
★1分間で一番多く砂金を採ることができるのは誰だ!? 好評の不定期開催ミニゲーム「ハイスピード砂金採り」

博物館ホームページリニューアル

身延町公式ホームページリニューアルにともない、当館ページも３月12日(木)より新しくなりました。町特産の和紙をベースに、金箔をちりばめたような優しい色合いのデザインです。ページ構成も変更され、よりアクセシビリティが高いものとなっています。新設ページもあり、ただいま鋭意更新作業中です。ぜひ、一度、当館ページを訪れてみてください。

▶https://www.town.minobu.lg.jp/site/kinzan/　新ページQRコードはこちら▶

編｜集｜後｜記

新年を迎えたと思ったらもう３月。博物館周辺は河津桜やシダレザクラ、ソメイヨシノの開花で春らしい景色が広がっています。春は出会いと別れの季節。行政施設である当館も異動があります。縁の下の力持ちであった職員Ｋが博物館を卒業します。（当館職員はイニシャルＫが多くてややこしいですが…）一見、強面ですがとても優しく思いやりのある方で、博物館活動を盛り上げてくれました。実は、お客様に好評の金魚・メダカ・ドジョウたちのお父さん的存在でもありました。お父さんがいないとお魚たちが寂しがるので時々来てねと、お願いしています。では「出会い」はというと、F(元・金山リーダー)が仲間入りです。４月以降も引き続き明るく元気な博物館を志向していきますので、新年度もどうぞよろしくお願いします（編集Ｋ＆Ｉ）

甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより
第114号
令和8(2026)年3月31日

発行　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
〒409-2947　山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015　FAX 0556-36-0003
博物館HP▶https://www.town.minobu.lg.jp/site/kinzan/index.
E-mail▶yunoking@town.minobu.lg.jp　もーん父さん▶X ＆ Facebook